

露地で栽培する秋彼岸出荷シンテッポウユリのための‘F₁オーガスタ’の育苗方法

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

シンテッポウユリの露地秋彼岸出荷作型において、定植前に 5℃暗黒下で 2 週間の苗冷蔵を行うことで 9 月彼岸前高需要期の採花率を高めることができる。現地では 5℃の冷蔵庫が利用できない場合があり、その代替として玄米などの保冷库(13℃)を利用した場合の苗冷蔵の効果について検討した。さらに、13℃で 2 週間連続して苗冷蔵すると、5℃とは異なり苗の徒長が懸念されることから、イチゴなどで報告されている間欠冷蔵(花田ら, 2015)を併せて検討した。

(2) 情報・成果の要約

- 1) 13℃間欠 2 週間苗冷蔵は、冷蔵庫で 1 週間冷蔵後、ハウスで 1 週間育苗し、再度冷蔵庫で 1 週間冷蔵する。
- 2) 13℃間欠 2 週間苗冷蔵により、5℃2 週間苗冷蔵と同等に 9 月彼岸前高需要期の採花率が高められる。
- 3) 13℃苗冷蔵は、5℃苗冷蔵より苗が徒長気味となるが、切り花品質は、5℃2 週間苗冷蔵と同等である。

2 試験成果の概要

- (1) 2018 年は、4 月上旬～5 月下旬の平均気温は平年に比べて高く推移したが、定植期の 6 月中旬は平年より低かった。定植以降、8 月下旬までは平年と比べて気温が高く推移した。収穫期の 9 月は気温が平年と比べて低く、降水量が多かった(データ省略)。
- (2) 栽培スケジュールを表 1 に示す。
- (3) 定植前 1 か月間における低温遭遇積算時間は、18℃以下が 5℃2 週区および 13℃間欠 2 週区で約 450 時間、5℃1 週区および 13℃1 週区で約 320 時間、無冷蔵区で 210 時間だった(表 2)。
- (4) 苗の生育は、13℃間欠 2 週区および 13℃1 週区の最大葉長が長く、葉色も淡かった(表 3)。これらの区の苗は定植時に徒長気味だった。
- (5) 抽台の推移は、5℃2 週区が最も早く、次いで 13℃間欠 2 週区、5℃1 週区、13℃1 週区の順で、無冷蔵区が最も遅かった(図 1)。
- (6) 抽台時期が早いものほど採花時期も早かった。高需要期採花率は、無冷蔵区で 63%だったのに対し、13℃間欠 2 週区および 5℃2 週区が 80%以上だった(図 2、

表 4)。

(7) 切り花品質は、処理区間で大きな差はみられなかった (表 4)。

表 1 栽培スケジュール

処理	3月	4月	5月	6月
5°C1週区		3/29 播種		6/12 入庫
5°C2週区	3/22 播種			6/5 入庫
13°C1週区		3/29 播種		6/12 入庫
13°C間欠2週区	3/22 播種		5/29 入庫	6/5 出庫
無冷蔵区		4/6 播種		6/20 定植

注) 〓 5°C苗冷蔵、暗黒下、 〓 3°C苗冷蔵、暗黒下
 13°C間欠区の6/5~6/12はハウス内育苗とした
 いずれの冷蔵区も定植前出庫は6月19日とした

表 2 各処理区の定植前 1 か月間の低温遭遇時間

処理区	18°C以下	13°C以下	5°C以下
5°C1週	321	201	168
5°C2週	463	368	335
13°C1週	321	201	0
13°C間欠2週	443	365	0
無冷蔵	210	39	0

注) 5/20~6/20 の 1 か月間

表 3 苗の生育状況

処理区	葉数 (枚)	最大葉長 (cm)	葉色	葉の厚さ (mm)	乾物重(g/株)	
					上部	下部
5°C1週	3.4	13.5	36.2	0.53	0.142	0.033
5°C2週	3.2	13.9	38.3	0.50	0.147	0.034
13°C1週	3.6	15.9	32.0	0.50	0.162	0.036
13°C間欠2週	3.6	16.6	28.6	0.48	0.147	0.042
無冷蔵	3.4	14.0	37.7	0.50	0.182	0.044

注) 調査日: 2018年6月21日 葉色: MINOLTA社製 SPAD-502で計測

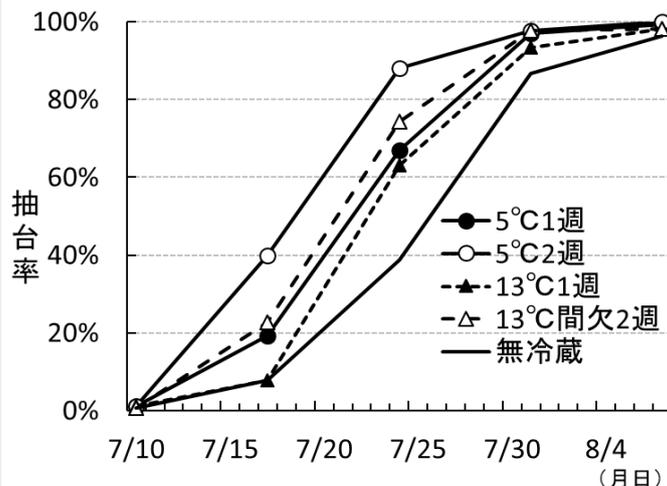


図 1 苗冷蔵温度と期間が抽台率に及ぼす影響

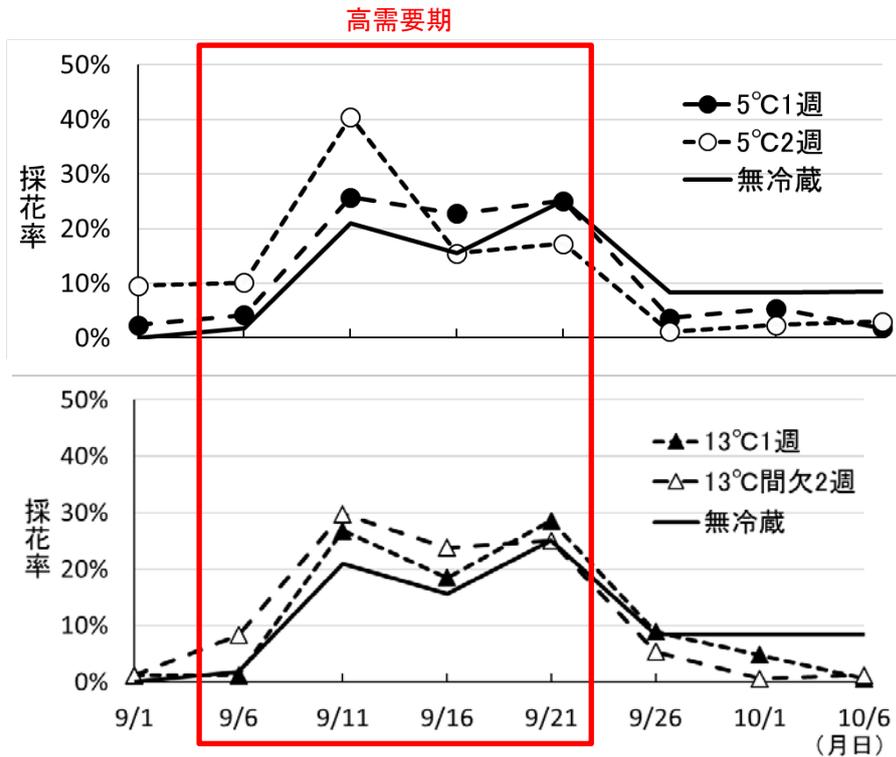


図2 苗冷蔵温度と期間が採花率に及ぼす影響

注) 採花率：出荷可能本数/活着本数

表4 切り花品質と採花状況

処理区	切花重 (g)	切花長 (cm)	輪数 (輪)	茎径 (mm)	葉数 (枚)	葉色	平均 採花日	採花率	うち 高需要期
5°C1週	162.1	116.6	3.4	10.2	52.6	70.3	9月14日	91%	78%
5°C2週	160.8	115.2	3.5	9.6	51.0	69.8	9月11日	99%	83%
13°C1週	165.4	116.1	3.4	10.4	51.9	70.6	9月15日	90%	75%
13°C間欠2週	157.1	113.1	3.4	10.0	49.8	70.8	9月13日	95%	87%
無冷蔵	176.7	120.6	3.6	10.6	54.8	70.7	9月18日	89%	63%

注) 採花は2018年10月11日までとした。

採花率：出荷可能本数/活着本数 高需要期：9月6日～21日とした。

3 利用上の留意点

- (1) 対象地域は県内全域。栽培は灌水ができ、豪雨時に湛水しない圃場であること。連作は避ける。
- (2) 台風襲来時には、支柱の補強などを行う。葉枯れ病の防除は定期的に行う。

4 試験担当者

花き研究室 主任研究員 池田 規子*
 研究員 田邊 雄太
 室長 岸本 真幸

*現 東伯農業改良普及所副主幹